

航空発祥の地・所沢航空記念公園めぐり

2018-3-18 記 池田 衛

■実施日時：2018年3月15日（水）9:00～11:00 ■場所：所沢航空記念公園

■参加者：18名

■ガイド：所沢観光コンシェルジュ 山本和子様 小野正夫様

1. 所沢観光コンシェルジュ：

今回初めて、所沢観光コンシェルジュによる「航空発祥の地・所沢航空記念公園めぐり」を行いました。所沢観光コンシェルジュは、本市の文化・歴史を後世に語り継ぐことや、市内外から訪れる方への案内を担当します。

案内は今回のコースと「所沢文化と歴史の中心・旧町めぐり」を行っています。

観光ボランティアの山本さんは、春到来の航空記念公園の自然、小野さんは航空発祥の地に関わる歴史の解説をして頂きました。航空記念公園に関わる自然と歴史を同時進行的に体験するぜいたくな時間を過ごしました。

所沢航空記念公園は1911(明治44)年、わが国で初めて飛行場が開設され、同年4月5日早朝、徳川大尉操縦のアンリ・ファルマン機が初飛行に成功しました。それ以来、わが国航空界の発達に貢献した由緒ある「航空発祥の地」であります。



自然解説の山本コンシェルジュ



歴史解説の小野コンシェルジュ

2. 旧所沢飛行場学習記録：

当会では創設以来、所沢飛行場に関わる学習を3回行っています。

- 1) 2013年2月：16期グループワーク発表会の「所沢飛行場100年」(30分)。
- 2) 2015年1月：写真等を大幅に捕捉し前回の倍するくらいの資料を揃えて発表会の再現として「所沢飛行場100年の歴史」。
- 3) 2017年6月：所沢の語り部“ひげじい”こと三上博史さんによる講演「所沢の町場と飛行場」。

所沢飛行場は、所沢の歴史の最重要課題といえます。今回初めて、現地の歴史探訪を実施しました。

3. 「ところざわ航空園公園」コース（約2時間）：

①航空公園駅 9:00 ⇒②YS-11 型飛行機 9:18 ⇒③所沢航空発祥100周年記念碑 9:30
⇒④天皇駐輦碑（てんのうちゅうれんひ） 9:35 ⇒⑤フオール大佐胸像 9:43 ⑥バスケットボール支柱跡 10:15 ⇒⑦木村・徳田両中尉記念碑（追悼の慰霊碑） 10:17 ⇒⑧クラブパーキング跡 10:20 ⑨荒鷺達憩いの庭園 10:27 ⑩少年飛行兵像（別名：健児の塔） 10:38 ⇒⑪航空神社鳥居跡 10:40 ⇒⑫滑走路跡 10:43 ⇒⑬「航空発祥の地」の記念碑 10:46 ⇒⑭C-46A機 11:00 ⇒⑮所沢航空発祥記念館 11:01

*赤字で示した記念碑等の解説は、昨年実施した三上博史さんによる講演会で配布した『ひこうきのふるさと所沢』を参照してください。

同パンフレットは、所沢市役所、中央公民館で入手できます。

4. 安住の地を得た「追悼の慰霊碑」：

木村中尉が操縦、徳田中尉が同乗していたプレリオ機が、東京青山練兵場で行われた陸軍省の観覧飛行会の帰路、所沢飛行場を目前に、突然の強風にあおられ左の翼を破壊され、牛沼の山林に墜落し、わが国最初の航空事故犠牲者になりました。

墜落の1年後に二人の英霊を慰めるため「やまと新聞社」が中心となり両中尉の功績と死を悼み、義援金を募り墜落地点に二人の英姿を銅像として記念塔を建立しました。

- 1) 大正2年3月28日：墜落事故
- 2) 大正3年3月28日：記念塔建立
- 3) 昭和4年3月：在郷軍人が発起人となり所沢駅前移設（交通の便が悪く、訪れる人が少い）
- 4) 昭和27年：西武園遊園地に移設（所沢駅前整備のため）
- 5) 昭和40年：航空自衛隊入間基地内移設
- 6) 昭和55年3月：所沢航空記念公園現在地に設置（両中尉が生前飛立った地）



木村・徳田中尉墜落地



追悼の慰霊碑



ひこうきのふるさと所沢

5. 所沢航空公園の聖地：

所沢航空公園に聖地があるなんて考えてもみなかった。私が勝手に聖地にしたかもしれないが。

1) 荒鷺達憩いの庭園：

少年飛行兵像の近くに池のような痕跡があります。樹木の根がコンクリートの縁を超えて根を

張っていて、無残な有様です。その場所は、在りし日の少年兵の憩いの場所として使っていたそうです。また、特攻隊員が特攻基地に向かう時の稜の場所となっていたかもしれません。

以前は、池に根を張った樹木に「荒鷲達憩いの庭園」の看板がありました。看板もない現在は、コンシェルジュの案内がなければ、所沢飛行場を旅たった英霊たちの存在を知ることができないでしょう。

2) 航空神社跡地：

少年飛行兵像の近くにもう一つの聖地があります。1937(昭和12)年9月、陸軍所沢飛行学校内に造営された神社跡です。現在は鳥居跡を示す2本の柱があります。

神社創建を主唱したのは日本初の飛行機操縦士である8代校長徳川好敏で、10代校長木下敏によって創建されました。創建の翌年、現在の航空自衛隊入間基地へ移設され、更に敗戦後の1945(昭和20)年9月、北野天神境内へ移設され、1965(昭和40)年廃社されました。

わずか1年ではありますが、参道跡も現存しており、先の「荒鷲達憩いの庭園」ともども史実をはっきりさせた案内看板が建立されることを願っています。



「荒鷲達憩いの庭園」跡地



消失した看板



航空神社鳥居位置を示す柱

担 当：A グループ 池田、鈴木（征）、鈴木（久）、西脇、高橋
（幹事）大山 （会計）恩田